

2014 年 10 月 31 日
マツダ株式会社

2015 年 3 月期 第 2 四半期 決算発表 主な質疑応答

1. **第 2 四半期累計の営業利益 対前年 300 億円改善の主要因は何か。**
 - A. 主に SKYACTIV 搭載車の販売拡大やコスト改善の進捗に加え、為替の円安影響による改善がありました。これらが、広告宣伝活動や開発投資の強化による固定費の増加を大きく上回り、対前年で 300 億円の営業利益改善となりました。

2. **国内販売の消費税影響は想定と比べてどうだったか。**
 - A. 増税の反動は想定よりも長く続き、上半期の国内販売は対前年で 18%減となりました。足元の販売は、新型デミオが導入されたことで反転基調にあります。今後も、適正在庫の管理と正価販売は継続し、マツダの提供価値を伝える広告宣伝活動の強化により、台数のリカバリーを図ります。

3. **メキシコ工場の年間生産能力を 23 万台から 25 万台へ増強予定だが、その理由は。**
 - A. Mazda3、Mazda2 の販売増が期待できることから、供給体制の強化のために能力増強を決定しました。これにより、国内の操業を維持しながら、海外生産比率を増やしていく計画です。また、メキシコ工場の活用により、仕向け先が欧州・北米等の車両では、関税メリットの享受、輸送費削減効果等が見込まれます。

4. **新型デミオの受注状況について教えてほしい。**
 - A. 9 月 11 日に予約販売を開始した新型デミオは、10 月 26 日時点で累計受注台数が、計画を大きく上回る 19,233 台となり、好調な滑り出しとなっております。エンジン別の受注台数構成比は、ガソリン車が 37%、ディーゼル車が 63%と、お客さまからは、マツダのクリーンディーゼルに対し高い評価を頂いております。
また、新型デミオは、「独自の魅力にあふれ、日本から世界に向けてアピールできる実力を持ったコンパクトカーである」という評価を頂き、「2014-2015 日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。

####